

参加自由

2018年度 京都外国語大学 第1回大学院主催公開講演会

日時：9月29日(土) 14時-15時30分

場所：432 教室(4号館3階)

講師：由本陽子 氏 [大阪大学大学院言語文化研究科教授]

テーマ：語彙的複合語の意味構造再考

概要：

一般に、複合名詞は語根複合語と総合複合語（または動詞由来複合語）に区別され、後者には主要部が動詞から受け継ぐ項構造による制約があるのに対して、前者では二語の関係は自由であり、その意味解釈はコンテキストに依存すると考えられてきた。しかし、特質構造による名詞の意味記述を用いれば、前者についても生産性が高くなる組み合わせの傾向を説明することが可能であることも指摘されている。本発表では、日本語の「V+V」型の語彙的複合動詞にも同様の考え方を適用し、影山（1993）以来想定されてきた意味合成パターンを新たな視点から再考する。

略歴：

1987年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程を所定単位修得後退学、1987年6月より大阪大学言語文化部、1997年8月～1998年4月ロンドン大学に留学、2007年より大阪大学言語文化研究科教授、博士(文学)大阪大学、2004年新村出賞受賞

著書：

『語形成と概念構造』（影山太郎氏との共著）研究社出版、『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成—』ひつじ書房、『語彙の意味と文法』（岸本秀樹氏との共編著）くろしお出版、『レキシコンに潜む文法とダイナミズム』開拓社、"Variation in N-V Compound Verbs in Japanese," *Lingua* 120:2388-2404、『語彙意味論の新たな可能性を探って』（小野尚之氏との共編著）開拓社。

問合せ先：大学院事務室